

議会 だより

市長のマニフェストにそった議案が可決

平成19年9月議会は9月6日から10月3日まで、12月議会は12月3日から10日までの日程で行われました。どちらの議会でも北橋市長が選挙戦で皆様とお約束したマニフェストにそって、子ども家庭局新設や女性副市長（表紙の）専任の議案などが提案されました。現在北九州市議会ではいわゆる市長派である与党が30名、野党が34名という構成になっており、どちらの議会でも最終日の採決まで何がおこるかわからないという緊張感のある議会でしたが、無事いずれも賛成多数で可決されました。また今回から、これまで議員ですら2月議会寸前にしか見ることのできなかった翌年度予算の編成過程を公開し、市民の皆様にご意見をいただくという、全国的にもめずらしい取り組みを行い、市民主体のまちづくりを行おうとしています。私も以前議会で取り上げ、本市でも予算編成にあたってオープンな議論をすべきと主張してまいりましたので実現し大変うれしく思います。国の三位一体改革の影響による地方交付税の大幅な減少とこれまでの積極的な公共投資による公債費の増加により大幅な歳出超過、歳入不足が発生しており、財政的に大変厳しい本市ですが、オープンな議論の中で我慢せざるを得ないところは我慢し、強めるべきところはしっかり強めていくことが大切です。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

9月議会では本会議一般質問に立たせていただき、また市長質疑もさせていただきました。質問の項目内容は以下の通りです。



1.公共施設の効率的使用と 利用収入アップについて

本市の市民が利用できるホールや会議室など有料施設の現在の利用状況と収入状況を尋ねました。またそれぞれの局で努力することは当然ですが、市全体で把握し、冊子にするなり、ホームページを活用して、しっかりとPRし、利用促進をはかるべきと見解を尋ねました。

2.児童相談所の一時保護所の現状と問題について

児童福祉法に基づき、保護者による家庭内での養育・監護が困難な場合や家出、被虐待、不登校、家庭内暴力、非行等さまざまな理由により児童の福祉が害されている場合などにおいて緊急保護や行動観察などのために行われるのが一時保護で、基本的に満2歳以上18歳未満の児童が対象となる場所が一時保護所です。本市においての児童虐待の対応件数は平成12年度194件だったものが平成18年度にはなんと456件と増加しています。今後もさらに増加する可能性が高いと思われますが、そのことによって一時保護が必要な子どもの数も増えることが予測されます。現在本市の一時保護所は児童相談所と同じウエル戸畠の中にあり、定員40名で、日中活動する他のスペースも含め、一応法の定める最低基準は満たしているものの、閉鎖的なビルの中限られたスペースで、いずれの部屋も狭く入所者が多くなったり、男女のバランスが大きく変わった時には、子どもの大きさのお布団

がぎりぎり敷ける広さです。特に問題は被虐待児と非行児が一緒に部屋になることで、ストレスを抱えた子供の間でいじめや喧嘩など問題行動が起こり、逃げ場がない状態で実質的な二次虐待となったり、特に夜間に、激しい集団暴行や4階のビルであるにも関わらず窓を破って逃げる事案が起つたりしている現状もあると聞いています。そんな中、夜間の職員体制についてもあわせて改善をはかるべきではないかと見解を尋ねました。

3.学校の直結式給水の拡大について

子どもたちにより安全でおいしい水道水を飲んでもらうために貯水槽を経由する水槽式給水から直結式給水への切替えについて教育委員会だけでは時間がかかるため、水道局としても支援し少しでも早い切替えをすべきではないかと見解を尋ねました。

4.わかりやすい予算について

区ごとに現在出している主要事業の冊子などとリンクした、生活者の視点でわかりやすい予算の説明書を作成してはどうかと見解を尋ねました。

5.子育て支援、教育日本一のまちをつくるために

- ①子ども家庭局について
 - ②コーディネート機能の強化について
 - ③子どもの生活習慣向上の取り組みについて
- 尋ねました。

6.CCA北九州について

CCAとは、センター・フォー・コンテンポラリー・アートの略でいわゆる現代美術センターのことです。1997年に全国的に珍しい現代美術の研究機関として八幡東区にオープンし、国際的に活躍する内外のアーティストの卵を受け入れて研修を行うという実績を積み重ね、その分野では世界的に知られている芸術系学術研究機関ですが、ここにきて存続が危ういとの声が聞こえてきました。市の財政が逼迫する中、このセンターの存在が一般市民にはあまり知られていないこと、またその価値が本市に發揮されていないという状況がその背景にあります。そこでCCA北九州の存続についてまたこれまでの蓄積を積極的に活用することにつ

いて尋ねました。

7.深町小学校跡地利用について

深町小学校の移転改築により、若松区深町地区のこれまで長年続いたまつり深町の存続や地域の行事などの今後を心配する声が多く出ています。と同時に若松中学校はスポーツが盛んで、先日も全国軟式野球大会において惜しくも準優勝という輝かしい成績を修めているなどにもかかわらず、グラウンドの立地条件が悪く、のびのびとした練習もままならないという現状にあります。そこでこの深町小学校跡地を若松中学校のグラウンドとして使用するとともに、地元自治会やまちづくり協議会などとぜひ協力しながらやっていきたいとの地域のまとまった要望を受けての見解を尋ねました。

市長質疑

「赤ちゃんの駅」事業導入について

詳細については事務所までお問い合わせいただけます。北九州市議会ホームページの会議録がご覧頂けます。



男女ともに子育て しやすいまちの実現に向け…。

昨年のお正月はちょうど市長選挙の直前で、新年を迎えた夜中に子どもを寒くないように抱き、夫と親子3人で細々と旗を持って、恵比寿神社の境内入口で活動をしていました。その時点では夫は県議会議員選挙に出ることは考えておらず、まさか夫婦で議員をさせていただくことになろうとは思ってもみませんでした。

私自身、もともと政治の世界とは関係のない家庭で育ち、いろいろとまちづくりに携わるようになってその後志を立て、勉強しながら全く一人でこの世界に飛び込み、約12年前、



親子で住宅街にある畑のいもほりに参加

駅前にはじめて立った日のことを昨日の事のように思います。皆様のお陰でこうしてこの仕事が続けられますことを心から感謝する次第です。

また早いもので息子晃一朗も2歳になり、普通に会話ができるようになりました。相変わらず体格がよくいつも3~4歳に見られています。私たちの仕事は不規則で夜や土日祝日も予定が入るため、晃一朗をいつも預けてばかりではかわいそうなので、可能な場所にはできるだけ一緒に連れていくことにしています。ただ子どもにとってはけっして楽しいとはいえない場所を連れまわし、一日中おりこうさんを強要されているのはけっこうストレスがたまるのかもしれないと最近少し悩んでいます。

先日も夕方ある会場で「こんなにちは」とお声をかけて下さった方に、いきなり両手で「あっかんべー」をしたのです。その方にはお詫び申し上げ、その場で叱り私も落ち込みましたが、よく考えると少しかわいそうだった



収穫したイモを運ぶ晃一朗

かなとも反省をしました。先日も他の議員さんから「だいたい議員とかしていると外に目が向いて、自分の子供が非行に走ったり、不安定になったりするんだよね。三宅さんのところは親が二人ともだからどんなふうに育つかテストケースだね。」と言われドキッしました。これからも仕事上もいろいろと悩みながらの子育てになろうかと思いますが、男女ともに仕事をしながら子育てしやすいまちづくりを実現すべく頑張って参ります。